

「青少年教育指導者マネジメントセミナーⅡ」
 ～「ファンクショナル・アプローチ」
 ワンランク上の問題解決の技術～

平成 24 年 2 月 29 日（水）～3 月 2 日（金）



I 事業の背景（必要性）

青少年の健全育成に携わる指導者には、専門的・実践的なスキルが求められています。また、事業の企画・運営にあたっては、問題解決力も必要になります。

そこで、固定化された意識から脱却し、新しい理論に触れることで、ワンランク上の問題解決スキルを身につけられる講習会を開催することとしました。

II 事業の概要

1. 趣 旨

青少年教育施設や教育行政及び地域等において、青少年の健全育成に携わる指導者に求められる実践的なスキルである問題解決に関する知識・技能を習得し、指導者の資質・能力の向上を図り、施設・組織の改善・活性化を目指します。

2. 参加者

(1) 対象・募集人数

青少年の健全育成に携わる者 21 名

(青少年教育施設・教育委員会・教育研修所・NPO 法人団体・民間自然学校・自立支援機関等・青少年厚生施設等で勤務及び活動する者)

(2) 参加状況

<内訳>

	男性	女性	合計
国立施設	2	2	6
県・市立施設	13	1	13
民間団体	2	0	3
文部科学省・ 県教育事務所	2	0	2
合 計	19	3	22

<参加地域>

	男性	女性	合計
東北	2	1	3
関東	8	0	8
中部	2	0	2
近畿	4	1	5
中国・四国	1	1	2
九州	2	0	2

(3) 広報の方法

- ① 募集チラシを作成（交流の家作成）（資料 1）
- ② 全国青少年教育施設に配付（約 700 施設）
- ③ 全国都道府県青少年教育担当部局への配付（47 都道府県）
- ④ 全国政令指定都市青少年教育担当課への配付（19 都市）
- ⑤ 神奈川・山梨・静岡県近隣市町村青少年教育担当課への配付（30 市町村）
- ⑥ 青少年教育に関する NPO 法人、全国ボーイスカウト、ガールスカウト連盟等の民間団体への配付（110 団体）
- ⑦ 県内および首都圏での新聞掲載を依頼（報道 5 社）

3. 日程

29 日 (水)	12:30	13:00	17:00	18:00	20:00
		開講式 リエンテーション	講義・実習(1) 「ファンクションの定義」	情報交換会 (夕食含)	
1 日 (木)	9:00	12:00	13:00	17:00	18:30 20:00
	講義・実習(2) 「ファンクションの整理・分析・評価」		昼食	講義・実習(3) 「アイデア発想・概略評価・具体化」	夕食 フリー ミーティング
2 日 (金)	9:00	12:00	12:20		
	講義・実習(4) 「詳細評価・プレゼンテーション」		閉講式	(解散)	

4. 内容 (活動の様子)

「問題解決のためのファンクショナル・アプローチ」

・ファンクショナル・アプローチとは、問題解決の思考法の一つです。
課題に対して「どのようにすればいいのか」と手段から考えるのではなく、「何のためにするのか」(目的)、「それは何のためにあるのか」(機能)という視点から考察するもので、主に技術の世界で広まった問題解決の手法です。

・講師プロフィール：横田 尚哉 (よこた ひさや)
株式会社ファンクショナル・アプローチ研究所 代表取締役社長
顧客サービスを最大化させる経営改善コンサルタント。世界最大企業・GE (ゼネラル・エレクトリック) の価値工学に基づく改善手法を取り入れ、10年間で総額1兆円の公共事業改善に乗り出し、コスト縮減総額2000億円を実現させました。「30年後の子ども達のために、輝く未来を遺したい」という信念のもと、「形にとらわれるな、本質をとらえろ」という一貫したメッセージから生み出されるダイナミックな問題解決の手法は、「チームデザイン」「組織改善」の手法として注目が高まっています。

(1) 「ファンクショナル・アプローチ 概論」

ファンクショナル・アプローチ導入の目的やメリットなど、基本的な考え方を学び、これからの研修の手順を理解しました。

(2) 「ファンクショナル・アプローチ チーム活動」

選定されたテーマについて、チーム活動を進めました。情報の収集からはじめ、ファンクションの定義・整理・分析・評価を行い、従来よりも価値の高い考え方を導き出し、まとめとして各チームによるプレゼンテーションを行いました。

5. 評価

(1) 評価の方法

アンケート調査の実施

実施時期、期間、内容、参加動機などについて、4段階項目別と記入式アンケートを実施しました。

(2) 結果

① アンケート集計

項目	4	3	2	1
プログラムの満足度について	15 (71.4%)	6 (28.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
運営面の職員の対応について	21 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
事業全体の満足度について	18 (85.7%)	3 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

②アンケートのまとめ

プログラムについては、「内容がとても濃く、充実したプログラムでした」「何のために事業を行うか、という原点に戻る意識につながりました」など、満足を得た感想が多くありました。一方で、「もっと時間があれば」「2泊3日の研修で全てを理解するのは難しかった」などの意見もあり、内容の濃さをうかがえる回答が多数寄せられました。

また、運営面には「誠意を感じ、とても好感の持てる良い対応でした」と、職員の対応について良い評価をいただきました。

(3) 成果

①参加者のアンケートに見られるように、充実した講習になり、課題解決の方法として各施設に持ち帰ることができました。

②全国の施設から参加があり、相談と連絡が取り合える関係づくりができました。

Ⅲ 事業の企画と運営

1. 企画のポイント

- (1) 青少年教育に関わる各施設において、企画や運営の問題解決方法として、新しい視点や技術を身につけるために講座を開設しました。
- (2) 全国から参加者を集められる企画を行うことで、全国の施設や指導者のつながりが作り上げられるようにしました。

2. 運営のポイント

- (1) 東北や九州など、県外からの参加者がほとんどのため、御殿場駅までの往復はマイクロバスによる送迎を行いました。
- (2) 1グループ7人で、3グループ合計21人の参加者を募集。少人数による密度の高い講習にしました。
- (3) 自己紹介プロフィール記入用紙を事前に郵送し、講習開始前に返信していただきました。記入された参加者のコメントをまとめて配布することにより、研修グループを越えて参加者全員の理解が深まるようにしました。
- (4) 講習を終えた夜には情報交換会を行い、個人が抱える問題点や施設運営の改善点など、意見交換ができる場を設けました。

3. 今後の課題

- (1) 施設・組織の活性化や人材・指導者の育成に関わる特色ある講習会を、今後も継続的に行うこと。
- (2) 中央で行う講習会・研修会の質の高さを、全国の青少年施設に周知されるように広報すること。

4. 参考資料

(1) 参考文献やサイト

<サイト>

横田尚哉オフィシャルサイト <http://yokotahisaya.com/>

株式会社ファンクショナル・アプローチ研究所 <http://www.fa-ken.jp/>

<書籍>

問題解決のためのファンクショナル・アプローチ入門（単行本）

ワンランク上の問題解決の技術《実践編》（単行本）

(2) 資料

①アンケート用紙

②実施要項

③自己紹介プロフィール記入用紙

担当：望月省吾，加藤英樹，中村匡寛